



「兵士の物語」(ブベニチェク振付) エイダン・ギブスン、ファビオ・ボッカラッテ Aidan Gibson and Fabio Boccalatte in Jiří Bubeníček's *The Soldier's Tale*. ©Costin Radu

に信憑性を与える十六人のダンサーの存在感と妖艶な感性が乗り移った結果といえよう。

エウリデーイチエを失って生きる喜びをなくしたオルフェウスは、兵士となって(ジュニア・ドミトルが無邪気な子どものように究極のナイーブさを見せた)ロシアのメルヒエンにあるように物質の世界に喜びを見つけようとする。

彼は軽い気持ちで悪魔(魅力的な誘惑者ジョゼフ・バン)と取引し、自らの所有物であるヴァイオリンを、贅沢な人生を約束するという一冊の本と交換してしまう。すべてを監視する眼を先端に付けた黄色いピラミッドは、地獄の王が支配する帝国とその権力の象徴である。その地に留まる代償として、兵士たちは故郷と妻を失っている。

この帝国で得ることが出来る報酬は、幸福の放棄であることに気づいた主人公は、悪魔との契約を反故にしようと思いつく。彼は巧妙な手口でヴァイオリンを取り返し、その音色で陰鬱さから立ち直ることのできたプリンセス(アリーナ・ケッペン)の愛も手に入れる。しかし、当然のことながら悪魔との精算は済ん

でいない。彼もオルフェウスと同じように、恋人と普通の生活に戻ることはできない。

舞台いっぱいダンスが繰り広げられる場面でも、振付レベルでは悲哀感が随所に織り込まれ、兵士が悪魔の操り人形として動かされていることが分かったそのとき、どうしようもならないという空虚さが絶頂に達する。緞帳が降りた後、出演者とコリオグラファーに対する拍手喝采が長く続いた。新たな解釈に基づく舞台を彼らが楽しみつつ上演していたことが観客に伝わった証と言えよう。



リハーサル中のイリ・ブベニチェク Jiří Bubeníček in rehearsal. ©Costin Radu